

放射線サーベイヤーパーボランティア派遣報告 6/2011

済生会京都府病院 大澤 啓次

京放技でも福島原発事故への技師の派遣について管理士会での対応として話し合いを始めていたところ、予想以上に早く派遣依頼がありました。出発は一週間後とのことで十分な情報がなく、それから出発までの日々は病院への派遣許可申請、休暇届け、情報収集等であつという間に過ぎてしまいました。そして3月31日に福島入りしました。

宿泊地となった福島県郡山市は地震の被害から徐々に日常の生活を取り戻しつつある頃で、コンビニにもある程度の商品は入荷しており、ガソリンも並ばずに入れることができる状態でした。サーベイベ会場となった田村市総合運動公園へは車で約1時間の距離です。震災の影響で道路が波打っているところもありますが特に不自由なく通うことができました。

私たちは全日程この会場となりましたが日によって出向く会場が変わる可能性があり、前日の夜に次の会場が知らされるといった状態でした。ほかの団体でサーベイヤーパーとして来られている方たちも同様でした。サーベイベ会場隣の体育館にも約800人の被災者が避難されていました。サーベイベの現場は地元の役所の方が来られていない日もあり、受付や案内係を被災者の方がされていて非常に頼もしい存在でした。まさに体ひとつで避難されてつらいはずですが元気に仕事をされる姿に本当に頭の下がる思いです。サーベイベを受けに来られた被災者の中には私たちが京都から来ているのがわかると「遠いところからありがとうございます。がんばってください。」と逆に励まされることもあり言葉では言い表せない気持ちになったものです。

サーベイベに関しては報道でもあるように13,000cpm以上が対象部位の除染や隔離保管、100,000cpm以上で全身除染となっていますが、100,000cpmを下回っていれば汚染された靴、洋服等も普通ゴミとして廃棄し、13,000cpm以下なら「問題なし」として着用可能との取り決めでした。どのような気持ちでサーベイベをしていたか診療放射線技師の皆様でしたらわかってもらえると思います。

短い期間ですが少しでも福島の人たちの役に立ちたいと思い参加した今回の活動で、私自身勉強になることがたくさんありました。

復興にはまだまだ時間がかかるでしょう。現地に行かなくてもできることはたくさんあります。今後も何らかの形で東北の人たちの支援に協力していけたらと思います。

高濃度汚染物質を隔離し、毎日計測する。**10万**カウント毎分以下になったら一般ゴミとして破棄できる。

